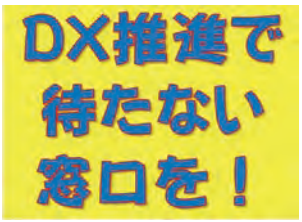


あらたに隆見（公明党）

1.DXの推進で更なる業務改善を！
2.待たない障害福祉の窓口を！

問　今までのDX推進で得られた成果について伺う。
答　令和７年度で業務時間1,288時間、金額で約4,600万円、約21万枚の紙の削減効果があった。
問　AI活用やDX知識に明るい人材が庁内実務現場に入り、職員に直接アドバイスすることが必要ではないか。
答　必要と思っている。外部人材を入れ伴走支援を行っている。また、DX推進リーダーを育成している。
問　障害福祉課の混雑状況と要因について伺う。
答　精神障害関係の受給者数が増えており、１時間以上の待ち時間が発生する場合もある。
問　事前予約や混雑状況の発信はできないのか伺う。
答　庁内連携を図り検討していく。
問　障害の申請手続きは国や東京都が定めた手続きで、市ではオンライン化ができない。利用者目線で都に手続きの簡素化やオンライン化の導入を求めるべきではないか。
答　非常に重要と考える。都に手続きのオンライン化等の予算要望をしているが、引き続き声を上げていく。





折戸小夜子（多摩の風）

1.公園のトイレを快適に使用できる改善を
2.気候危機の豪雨対策について

問　市民から、「公園の和式トイレを利用した際、手すりがないため、膝や足腰が弱く立ち上がれず大変困った」との切実な声をいただいた。調査したところ、公園トイレには手すりが設置されていない箇所が多いことがわかった。早急にトイレの手すりを設置すべきではないか。
答　公園のトイレ86か所のうち和式約７割、洋式約３割である。老朽化が進み改修の時期にあり、公園再編事業を進める中で試行的に一部の手すり設置を検討する。
問　千葉豪雨は線状降水帯の発生で観測史上最大の降水量となり、内水氾濫で道路が冠水し、車両の立ち往生や住宅が浸水するなど多くの被害が生じた。都市型水害での被害を最小限に抑えるため、減災につながる止水板の早期設置を提案したいが、市の見解を伺う。
答　内水氾濫は河川の氾濫ではなく、短時間の集中豪雨により一瞬で道路冠水や、床下・床上浸水が発生するため、家具や設備の損害を起こさないよう、止水板設置を前向きに検討する。


▲手すりのないトイレ（本人撮影）



しのづか元（多摩みらいの会）

今後の人口減少社会を見据えた
まちづくりについて

問　今後の人口減少社会を見据え、中長期的な視点でのまちづくりが求められる。まちのダウンサイジングや更なる用途地域の見直しが考えられるが市の見解を伺う。
答　人口増加を前提とした考え方から転換し、人口減少を前提に都市構造の最適化やダウンサイジングを図っていくこと、必要に応じ都市計画の見直しも含め検討するなど、持続可能なまちづくりを進めていくという考え方は重要な視点であると認識している。
問　今後は縮小を前提とした、前例にとらわれない発想の転換が求められる。他市との差別化を図り、独自性や個性を生み出すまちづくりの必要性について見解を伺う。
答　住宅、公園、道路など、インフラが充実した立地の優位性を活かし、賢く縮む施策を展開し、誰もが活動しやすい「持続可能な生き残れる街」をめざす。また、地域ならではの独自性や個性を活かした「にぎわい」の創出の視点を持って、未来に向けたまちづくりを進める。





さとうみずほ（生活者ネットワーク）

1.階段のある家での高齢者の移動支援
2.介護人材の確保と労働環境の改善
3.高齢者を孤立させない生活支援

問　エレベーターのない住宅に住む高齢者の移動支援や、住み替えの課題を市はどう認識しているか。
答　買い物や通院等に支障が生じ、社会的孤立にもつながる、大変重要な課題であると考えている。
問　移送支援の担い手不足に対し、機器購入や維持費の負担を含めた事業者の総合的な支援が必要ではないか。
答　事業者支援の必要性や課題を踏まえ、どのような対策が取れるのか検討したい。
問　深刻化する介護人材不足への対策や、現場の労働環境改善に向けた支援は行っているか。
答　介護保険事業者連絡協議会等を通じて情報共有や研修を行い、今後も実態把握に努める。
問　介護現場の小さな悩みを気軽に相談できる場を作れないか。
答　提案も含めてどのようなことができるか検討したい。
問　高齢者の孤独・孤立を防ぐ生活支援の充実策はあるか。
答　地域での支え合いや外出のきっかけづくりを進める。

